

*:

1 ポートエッセイ — 製造業の国内回帰は進むか —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。

会員の皆さまには、本年も引き続き当連合会の活動へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、グローバル化した経済は、WTOのもとで多角的貿易体制の基礎を築き、貿易の自由化の促進により世界経済の成長に貢献してきた。

そのなかで、多くの国で二国間又は多国間でのEPA/FTA(経済連携協定/自由貿易協定)が締結され、企業の海外進出とともにグローバルな資材・部品調達が進みそれに伴う生産体制も構築されてきた。

また、それを支えるための効率的なサプライチェーンが構築されたことにより、グローバル化した経済構造が形成されてきたように思われた。

しかしながら、このたびのパンデミックによる世界的規模での行動制限に加え、ロシアのウクライナ侵攻、米中の対立など国家間の紛争などにより信頼関係が損なわれることに至ったことは、この仕組みの脆さが露呈してしまったようである。

この様ななかで、1990年代から急速に進んだ我が国の製造業の海外進出に変化が見えてきた。

我が国の製造業は、新興国の安い労働力を求めて生産拠点を海外に移転を進め、新興国の所得が向上すると、「生産拠点」に加え、「消費市場」として位置付けるようになってきた。

しかし、海外現地進出生産比率は、2016年をピークに横ばい状態が続いており、そのなかで、パンデミックによる人手不足から生じた工場の操業停止や輸送網の混乱などから、資材や部品の供給の遅延で国内の工場も操業に支障がでるようになった。

さらに、昨年からの急速な円安が加わったことで、経済成長が進む新興国との労働賃金に優位性が見られなくなってきている。

コスト面でメリットが薄くなってきたことに加え、サプライチェーンに対する不安があることから国内生産へシフトにメリットがあること、また国家間の紛争のリスクに企業が直面するようになったことで、徐々に製造業の国内回帰が見られるようになってきている。

我が国としては、これから進む労働人口の減少が進むなかでの人材の海外流出は深刻であり、また、事業用地の確保にかかる開発手続きの効率化といった取り組みが今後の課題となる。

当連合会としても知恵を絞り、我が国の経済の回復と成長に向け、今年は港湾からソフトとハードの両面から話題が発信できるような年にしたい。

*:

2 トピック

*:

●「令和4年度 港湾空港研究セミナーin関東」を開催しました

(関東地方整備局 港湾空港部)

11月30日(水)、(国研)海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所、(一社)日本埋立浚渫協会関東支部、関東港湾空港建設協会連合会、(一社)海洋調査協会関東支部及び(一社)港湾技術コンサルタンツ協会との共催で「令和4年度 港湾空港研究セミナーin関東」を開催しました。

本セミナーは、港湾・空港分野の魅力を学生や社会人に広く伝えることを目的に、対面及びweb形式で開催し、合計40名の学生・社会人が参加しました。

セミナーでは、行政・研究・調査・計画・設計・施工の各団体が一堂に集まり、それぞれの分野における最新の動向や業務概要、直面する課題への取り組み、仕事のやりがい、キャリアパス等について紹介・講演しました。また、各団体毎にブースを設け、業務の補足説明や来場者からの質問に対して個別に対応しました。

関東初の試みとして開催したセミナーでしたが、参加者からは「普段聞いたことのない港湾空港を詳しく知ることができ、その中で色々な立場の人が携わっていることを知った。」「ブースでの説明をもっと聞きたかった。」といった感想や意見をいただきました。



各分野の講演の様子



関東地整ブースの様子

●首都直下地震および南海トラフ巨大地震に対応した代替輸送訓練を実施しました。

(北陸地方整備局 港湾空港部)

北陸地域国際物流戦略チーム(事務局:北陸地方整備局、北陸信越運輸局)は、今後発生が危惧される首都直下地震および南海トラフ巨大地震を想定した日本海側港湾への外貨コンテナの代替輸送訓練を12月12日、13日にオンライン形式で開催いたしました。

この訓練は、東日本大震災の際に生じた物流の混乱を教訓に、今後発生が危惧される太平洋側の巨大地震の際にも、物流の混乱を低減させるため平成25年度より毎年実施し、今年で10回の節目と

なりました。

これまでの訓練は、代替輸送を円滑に実施するため「代替輸送手引書」の作成および充実を目指してきましたが、今回の訓練は、“代替輸送を円滑に行うために必要な準備は何か”を定量的に把握することを目的に実施しました。

具体的には、①リスクヘッジとして日常より物流ルートの多角化をしているか、②事業継続計画（以下「BCP」という。）の記載内容が、具体的な代替輸送を想定したものとなっているか、③BCPを作成しているのかという3つの条件の組み合わせた6つのグループで検証を行いました。

今回の訓練を通じて、日頃から物流の多様性を持つことや、代替輸送の具体的な手順をBCPに明示的に記載することが代替輸送の実現には重要であることが分かりました。

最後に今回の訓練結果が企業BCPの見直しを実施するきっかけになればと願っております。



広域的なバックアップ体制のイメージ



オンラインの様子(アプリによる情報共有)

●港湾空港技術特別講演会in北陸2022を開催しました。

(北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

令和4年12月16日(金)に『港湾空港技術特別講演会in北陸2022』を開催しました。本講演会は、国土技術政策総合研究所(以下「国総研」)、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所(以下「港空研」)及び北陸地方整備局の共催により、港湾・海岸・空港等の分野に関する最先端の研究成果を一般の方々に分かりやすく情報提供することを目的として開催しています。当管内では3年ぶりの開催となり、今回は本局会場から講演会の模様を配信するオンライン形式で行いました。

当局 杉野次長並びに港空研 河合所長による開会の挨拶に続き、港空研沿岸水工研究領域 鈴木領域長、地盤研究領域 佐々動土質研究グループ長、海洋利用研究領域 田村上席研究官、海洋環境制御システム研究領域 藤田領域長、中川特別研究主幹、国総研 港湾研究部 竹信港湾施設研究室長より、それぞれの研究成果等について講演いただきました。最後に、国総研 高野副所長による閉会の挨拶で締めくくり、本講演会は盛況の元に終了しました。



河合所長による開会の挨拶



講演会の様子

●清水港農産物輸出セミナーを山梨県甲府市で開催！

(中部地方整備局 清水港湾事務所)

清水港湾事務所では、清水港の農産物輸出拠点化に向け、農林水産省関東農政局と共同で「清水港農産物輸出セミナー」を山梨県甲府市で開催しました。

令和3年8月に中部横断自動車道(山梨⇄静岡間)が全線開通し、静岡県と甲信地方との道路アクセスが大幅に向上しました。また、令和4年5月には静岡市中央卸売場において新たにドックシェルター(低温環境を確保しつつ農産物をコンテナ等に荷積みするための施設)が整備され、清水港における切れ目のない低温物流環境が確保されたところです。

本セミナーでは、農産物輸出拠点化に向けた取組が進む清水港をより身近に感じていただくため、甲信地方における農産物生産者やその代表、商社等輸出事業者の方を対象に、清水港からの農産物・食品輸出に関する最新情報や、新たに整備されたドックシェルターを活用した輸出事例等を紹介しました。

本セミナーの開催を契機に、甲信地方も含めた広域的な農産物等の輸出拠点としての清水港の機能強化に向けた取組を官民一体となって進めてまいります。



●名古屋港ガーデンふ頭で冬のイベント(イルミネーション)を開催しました！

(名古屋港冬のにぎわい創出実行委員会)

名古屋港ガーデンふ頭臨港緑園(つどいの広場等)で、12月9日から12月25日までの間、約12万球のLEDを使ったイルミネーションを実施しました。

報道機関向け点灯式には名古屋のご当地アイドル「dela」のメンバーや「名古屋市コスプレホストタウンPR隊」のメンバーが駆け付けてくれました。

テーマは「心(ハート)躍る煌めきの港」で、つどいの広場にはハートオブジェや高さおよそ8mのクリスマスツリー、光の滝をイメージしたイルミネーションを展開し、家族連れやカップルなどが写真を撮る姿が見られました。

【URL】<https://nagoyaport-winter.com/>



●兵庫運河の人工干潟及び周辺における環境調査を実施

(近畿地方整備局 港湾空港部 港政課)

近畿地方整備局神戸港湾事務所は、令和4年11月8日(火)から9日(水)にかけて、神戸市兵庫区にある兵庫運河の「あつまれ生き物の浜」及び周辺エリアにおいて、神戸市港湾局・大阪公立大学工業高等専門学校や地元漁業協同組合と連携し、干潟が有する各種機能(水質浄化機能、多様な生き物の生息場としての機能)を定量的に把握する環境調査を実施しました。

今回調査を行ったエリアは、令和4年3月に「Jブルークレジット認証」が交付されており、日頃から藻場や干潟の保全活動が行われています。

今後も兵庫運河が豊かな自然を感じる場、また更なる賑わい創出の場となるよう地域と連携し、愛される里海づくりに取組みたいと考えます。



流速調査(24時間調査)



環境DNA調査(サンプル採水)



アサリ調査(試料採取)



アサリ調査(選別作業)

●今後の大阪湾再生を担う「将来世代の育成」に！大阪湾ベイスクール開催

(近畿地方整備局 港湾空港部)

近畿地方整備局が構成員となっている「大阪湾再生推進会議」では、今後の大阪湾再生に向けた取り組みの一つに「将来世代の育成」のために学校教育と連携した「海と親しむ機会の創出」が重要であると考えています。

その一環として、近畿地方整備局にて令和4年12月17日(土)に、船舶を活用しての体験学習会「大阪湾ベイスクール」を開催しました。

当日は小規模ながらもスーパーサイエンスハイスクール(地元高校)の教員生徒あわせて13名が参加し、学識者・地元漁業関係者から大阪湾や神戸港の環境や港湾に関する講義を聞き、船舶での神戸港内クルーズを実施し、最後に生徒から参加しての感想を発表いただきました。

抜粋になりますが、「普段見られない景色を船から見られてよかった。色んな発見ができて

面白かった。「海から街を見ることができ、海と陸のつながりを感じられてよかった。」「環境問題や漁師の方からの視点や意見が聞け、これからの学習に生かしたい。」との感想があり、今後も漁業者等多様な人たちを交え世代間を超えた交流を通じ、大阪湾を【見て・聞いて・知る】ことで、大阪湾の再生に繋げていければと考えます。

大阪湾再生推進会議とは・・・

平成15年3月に京都・滋賀・大阪で開催された「第3回世界水フォーラム」を契機として、関西圏の行政機関等が横断的かつ広域的に連携して、大阪湾の再生を図るための行動計画を策定し、その効果的な推進を図るため、平成15年7月に設置されました。



神戸港湾事務所ピアシップ・神戸港内クルーズでの講義



参加生徒からの発表

●「九州エリア初 芦北町「命のみなとネットワーク」協議会を開催

(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

12月22日(木)、豪雨による洪水や土砂災害等の気象災害が発生した際に、陸路が寸断して孤立した被災地等へ海上輸送による緊急物資や生活物資、救援部隊や被災者の輸送等を行うといった、みなとの機能を最大限活用した災害対応のための物流・人流ネットワーク「命のみなとネットワーク」について、芦北町において九州エリア初の協議会を開催しました。

協議会では、事務局より設置目的と「命のみなとネットワーク」の概要について紹介した後、芦北町での訓練案について説明を行い、令和4年度末までの訓練実施に向けた意見交換を出席者にて行いました。



●「第2回八代港の中長期ビジョンに関する検討会」を開催

(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

12月19日(月)、八代港をモデル港として概ね20年から30年先に必要と想定される港湾機能と役割を考え、対応の方向性や取組方策等を中長期ビジョンとしてまとめる「八代港の中長期ビジョンに関する検討会」の第2回会合を九州地方整備局の主催により開催しました。

検討会では、中長期ビジョン(案)について、課題・目標(案)・取組の方向性(案)・取組方策(案)の整理の考え方についての確認や表現の見直しの提案などの議論がなされました。



*:

3 お知らせ(みなとのイベント情報)

*:

◇イベント名：雪だ！灯りだ！芸術だ！あおもり冬のワンダーランド

【開催日時】令和4年12月9日(金)～令和5年2月12日(日)

【場 所】青森ベイエリア及び中心商店街

【概 要】青森の冬を盛り上げる複数のイベントが行われています。また、八甲田の樹氷を活用した八甲田地区事業や2023年に青森市で開催予定の「東北絆まつり2023青森」と連携した情報発信も行います。

【問合せ先】①青森市経済部観光課

電話 017-734-5179

②公益社団法人青森観光コンベンション協会

電話 017-723-7211

【U R L】<https://www.atca.info/wonderland.html>



オープンセレモニーの様子



市民創作の和製オブジェ「雪だるま〜る」

